

# Fukuoka University MEDICAL SCIENCE NEWS

No. 92

編集・発行  
福岡大学医学会  
福岡大学医学部内

福岡大学医学会ニュース

## 教務委員就任のご挨拶

教務委員（病理学講座 教授） 濱崎 慎

このたび川浪大治教授の後任として医学部教務委員を拝命し、医学教育の根幹を支える職務に携わるにあたり、その責任の重さに身が引き締まる思いです。教務委員の役割は、教育活動の調整や運営にとどまらず、医学部教育の方向性を長期的な視点で見据え、次代を担う医師の育成に寄与することであると考えています。

医学教育は、専門的知識や技能の修得だけで完結するものではありません。将来、医療の現場で判断を下し、責任を負う立場になるためには、学生には高い専門性と同時に、責任感、そして自らを律する姿勢が求められており、学修に向き合う姿勢そのものを育てる必要があります。教育の過程において、自ら考え、努力を積み重ね、結果に対して責任を持つという態度は、学生時代から培われるべき基盤であり、教育に携わる側もまた、妥協のない姿勢で向き合うことが求められ、ときに厳しい判断を示すことも医師としての成長に不可欠な要素であると考えています。

一方で、そのような教育を実現するためには、教員個人の熱意に依存するのではなく、学部全体としての共通理解と支援体制が重要です。個々の教員の経験や工夫を学部全体で共有し、教育の質を安定的に高め、教育現場に「心地よい緊張感」を構築することは教務委員として意識すべき重要な課題と責務であると考えます。クリニカルクラークシップ（診療参

加型臨床実習）においても、学生を単なる「見学者」に留めるのではなく、医療チームの一員としての責任を自覚させ、そのパフォーマンスに対して適切なフィードバックを厳格に行う体制を強化し、自らの限界に挑み、学問に対する謙虚さを持ち続ける学生を全力で支援しながらも、自己管理が不十分な者に対しては、早期にその適性を問い直し、意識改革を促す指導を徹底しなければなりません。また、教育・運営の現場を支えてくださっている職員の方々との協働なくして、医学部教育は成り立ちません。その役割に対する敬意を忘れず、円滑な連携を図っていきたいと考えています。

医学部の教育は、大学の将来のみならず、社会全体の医療の質に直結するため、「教える側」と「学ぶ側」の真剣勝負です。どの現場に立っても「福岡大学医学部の卒業生の質は、一線を画す」と評価される人材を輩出するためには、安易な対応に流されることなく、教育の本質を見失わない姿勢が求められます。また、現状に満足せず、常に改善や改革を追求していく覚悟も必要となります。医学部の将来を支えるのは、現在教室で、そして病院の廊下で学んでいる学生諸君です。彼らが真のプロフェッショナルとして開花できるよう、教職員の皆様のご理解とご協力、そして厳しくも温かいご指導を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



## 入学センター委員としての抱負

入学センター委員（総合診療学 教授） 鍋島 茂樹

このたび、長く入学センター委員を務められた衛生・公衆衛生学の有馬久富先生の後任として、2025年12月より福岡大学医学部の入学センター委員を拝命いたしました。長年にわたり入試制度の整備と運営に尽力されてきた有馬先生の後を引き継ぐことに、大きな責任を感じています。

本学医学部の入試は、推薦入試（A方式および地域枠）、共通テスト利用型、そして一般入試（系統別）の三つの方式から構成されています。これは、多様な背景や志を持つ受験生が、それぞれの特性を生かして挑戦できる仕組みであり、医学部としての教育理念を体現する第一歩でもあります。入学センター委員として、本医学部が掲げる「人間性豊かな臨床医の育成」「地域社会への医療奉仕」「重点的研究体系の確立」という三つの理念に沿った学生選抜が公正かつ透明性をもって行われるよう努めるとともに、FU-RIGHTに代表される本医学部が求める学生像を社会に分かりやすく発信していくことが重要だと考えています。幸い少しずつですが福大医学部志望者の数は増えつつあり、受験者は九州はもとより全国各地から応募してきますの

で、本学の重要性は理解されつつあると思います。医療を取り巻く環境が大きく変化するなかで、地域に根ざし、多職種と協働する能力をそなえ、患者さんの人生に寄り添える医師の育成は急務です。入試はその出発点であり、将来の医療を担う人材との最初の出会いの場でもあります。

さらに、入試業務に加えて、オープンキャンパス、高校への出張授業などの広報活動も重要な役割です。受験生や保護者の方々が本学の教育環境や雰囲気を実際に感じられる機会は、進路選択において大きな意味を持ちます。

有馬先生をはじめ、これまで入学センターを支えてこられた先生方のご尽力に敬意を表しつつ、私自身も医学部の発展に寄与できるよう誠心誠意努めてまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



## 学生部委員に就任して

医学部学生部委員（臨床検査医学 教授） 小川 正浩

2025年12月1日付けで学生部委員を拝命いたしました。これまでの4年間、研究推進部委員として医学紀要の編集、医科学研究の支援や産学知財の管理に携わってまいりました。今後は、学生生活や課外活動に関する指導・支援を主な任務として取り組んでまいります。

2022年4月の民法改正により、成年年齢は20歳から18歳へと引き下げられました。したがって、大学入学時点ですべての学生が成人としての生活を始めることとなります。しかしながら、医学生は受験期に続き学修に追われる多忙な日常のため、社会生活に必要なルールやその変化を十分に認識できないまま生活を送ってしまう危険があります。医師を志すものとして非喫煙の励行など、自らの生活や健康管理を行う姿勢が求められます。

自動車、バイクや自転車は生活の移動手段として使用することがありますが、道路交通法は交通情勢の変化や技術の進歩に合わせてしばしば改正されるために注意が必要です。また、デジタル社会の急速な発展により、SNSなどのデジタルネットワ

ークを介して新しい情報を得やすい一方、トラブルに巻き込まれる可能性もあります。新たな活動を始める際には、できるだけ周りの人との互助や十分な情報収集を行い、リスクを未然に防ぐ姿勢が重要です。

愛好会活動は、心身の鍛錬だけでなく、集団や個人としてのコミュニケーション能力を高め、社会生活への適応力を養う貴重な機会です。こうした活動は人間力の向上にもつながりますので積極的に参加してほしいと思います。

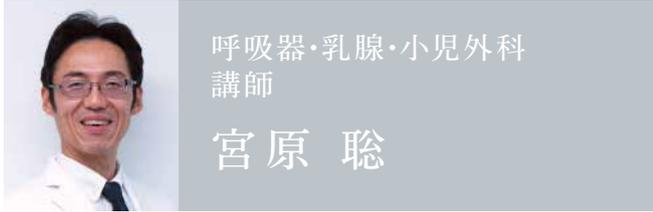
医師は生涯にわたり学び続ける姿勢が求められます。一社会人としても同様ですが、未知と出会う都度知識を増やし成長し続ける意欲が大切です。福岡大学での学生生活を通じて、学生一人ひとりが個性を伸ばし、広く社会に貢献できる人材へと成長していくことを期待しています。



# 新風

令和7年10月1日付けで  
本学へ赴任、昇格された方に  
自己紹介をしていただきました。

new phase



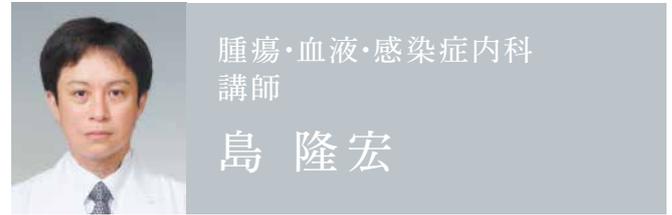
呼吸器・乳腺・小児外科  
講師

宮原 聡

**令**和7年10月より福岡大学病院呼吸器乳腺小児外科の講師を拝命いたしました。

2006年3月に山形大学を卒業後、2008年4月から福岡大学呼吸器乳腺内分泌小児外科に入局しました。岩崎昭憲教授の下で外科研修を修了し、大学院では主に肺癌に関する基礎研究を行っていました。大学院卒業後は肺癌診療ならびに肺移植の臨床に従事し、2017年には京都大学伊達洋至教授の下で多くの肺移植に携わってきました。京都大学への国内留学では多くの人間関係を築くこともでき、現呼吸器乳腺小児外科の佐藤寿彦教授との出会いも今に繋がる貴重な転機となりました。令

和3年4月から佐藤寿彦教授の下で単孔式手術およびロボット手術といった低侵襲手術を学び現在に至ります。当科を築き上げた先達の皆様の思いを引き継ぎ、福岡大学病院の発展に力を尽くしたいと思っております。



腫瘍・血液・感染症内科  
講師

島 隆宏

**高**松泰教授のご推挙により、令和7年10月1日付で腫瘍・血液・感染症内科講師を拝命いたしました。平成17年に九州大学を卒業後、市中病院での臨床研修、九州大学病院血液腫瘍内科に入局し、血液疾患診療の基礎から専門的治療まで幅広く研鑽を積み、その後、米国に留学し、臨床および研究の両面から血液疾患に対する理解を深めてまいりました。これまで、白血病、リンパ腫をはじめとする悪性血液疾患のみならず、良性疾患を含むすべての血液疾患の診療に携わり、特に免疫療法や造血幹細胞移植を含む集学的治療に注力してきました。国内外での診療・研究経験を通じて、標準治療を確実に行うことの重要性とともに、新たな治療戦略を臨床に還元す

## 福岡大学医学会第92回例会

■日時/令和8年2月18日(水) 17:30～18:30 ■場所/医学部 RI 講義棟 3F 大講堂

【進行】集会幹事 濱崎 慎

- 1) **開会の辞** 集会幹事 濱崎 慎
- 2) **会長挨拶** 医学部長 小玉 正太
- 3) **新任教授講演** (講演25分、質疑応答5分)  
講演者…馬場 康彦(脳神経内科学 教授) 座長…小玉 正太  
「神経難病の克服を目指して」
- 4) **福岡大学医学紀要52巻優秀論文賞授与式**  
👑 受賞者…落合 晋 (麻醉科学教室)  
**医学生業績報告書「JAMeS」優秀賞授与式**  
👑 北原 伊織  
「どうなる、日本の新型出生前診断- JAMeS 8(1):66-74, 2025」  
👑 地主 大起  
「脂肪肝指数と高血圧発症との関連-ISSA-CKD研究- JAMeS 8(1):6, 2025」
- 5) **受賞論文の要旨講演** (講演10分、質疑応答含む)  
講演者…落合 晋 座長…秋吉 浩三郎  
「Continuous Administration of Ouabain Ameliorates Persistent Allodynia in Neuropathic Pain Model Mice」
- 6) **閉会の辞** 集会幹事 濱崎 慎



講演された先生方と  
(左から、秋吉先生、落合先生、馬場先生、小玉会長、  
北原さん、地主さん)

る姿勢の大切さを学んできたと考えております。今後は、患者さん一人ひとりにとって最適な医療を提供することを第一に、安心して治療を受けていただける診療体制の構築に努めるとともに、周囲の医療機関からも信頼される血液内科診療を目指してまいります。また、次世代を担う若手医師の育成にも力を注ぎ、福岡大学医学部および福岡大学病院の発展に微力ながら貢献していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



筑紫病院脳神経外科  
講師

湧田 尚樹

**令** 令和7年10月1日付で、福岡大学筑紫病院脳卒中センター講師を拜命致しました。私は平成17年に山口大学を卒業し、平成20年に福岡大学医学部脳神経外科に入局しま

した。入局間もない若輩ながら、当時適応が拡大しつつあった神経内視鏡手術をテーマにいただいたことは、脳神経外科人生の道しるべとなりました。平成23年2月よりウィーン医科大学 Department of Anatomy and Cell biologyへ留学の機会をいただき、拡大経鼻内視鏡手術に関する解剖学研究を行いました。専門医取得後は、臨床の幅を広げるために内視鏡手術の研鑽と並行して血管内治療の修練を積み、その専門医も得ました。従来の脳神経外科の専門性は脳腫瘍や脳血管障害、頭部外傷など疾患分類を背景にしたものが主です。一方で、脳深部の腫瘍や脳出血、急性硬膜下血腫に対する内視鏡手術、腫瘍栄養血管や慢性硬膜下血腫に対する血管内治療など、近年はデバイスの進歩を背景に治療適応の横断的な拡大がみられます。これまで培ったスキルを活かして多様な疾患に対処し、福岡大学の発展に貢献できますよう尽力して参ります。引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 第52回 医学部慰霊祭

第52回福岡大学医学部慰霊祭は、ご遺族並びにご来賓の方々、本学教職員と学生約370名が参列し、令和7年10月18日(土)午後2時からユウベル積善社福岡斎場において厳粛に執り行われました。

今回祀られた霊位は、学生の医学教育の目的で、系統解剖のために献体された27柱、病院で死去されて病因究明のために病理解剖を御承諾頂いた17柱、合わせて44柱でした。

献灯献花の後、厳粛な雰囲気につつまれて慰霊祭は進行し、小玉正太医学部長は祭詞の中で、医学の発展のために欠くことのできない解剖にご献体頂いた霊位とご遺族、さらに、ご協力を頂いた各種関係機関に敬意と謝意を表されるとともに『私どもは、日々花を供え、香をたいて44柱の科学に対する貴きご献身を偲び、敬意と感謝の念

を表していますが、本日、ここに一堂に会し、皆様方の崇高な御遺志を今一度思い起こして、今後益々、勉学、研究に励み、人類の幸福と福祉に貢献できますよう努力することをお誓いいたします』と新たな誓いを披瀝しました。



教室だより  
Letter from a classroom



## 眼科学講座

福岡大学医学部眼科学講座は、地域に根ざした高度眼科医療の提供、次世代を担う眼科医の育成、ならびに将来を見据えた研究の推進を三本柱として活動し、地域における眼科医療を支える中核的役割を担ってきました。

2025年4月に慶應義塾大学より平山雅敏主任教授が着任し、診療体制の再構築と各分野の専門性強化に取り組みました。この一年間は、前眼部疾患を中心としつつ、眼科領域全般における高度手術医療の充実を図った期間となりました。角膜移植、ドライアイ、翼状片といった前眼部疾患に対する角膜ドライアイ外来を開設し、手術においては全層角膜移植や角膜パーツ移植、さらに最新のDMEKを含む内皮移植手術を安定的に施行できる体制を整えました。加えて、再生医学的手法を用いた培養上皮シート移植の実施も可能となり、重症例に対しても包括的に対応できる診療体制が構築されつつあります。

同時に、緑内障や網膜硝子体疾患などの難治性疾患に積極的に取り組み、手術件数は着実に増加しています。小児眼科、白内障、眼炎症、眼外傷など、各分野の専門医が密接に連携することで、患者一人ひとりの病態に即した最適な治療提供を重視しています。

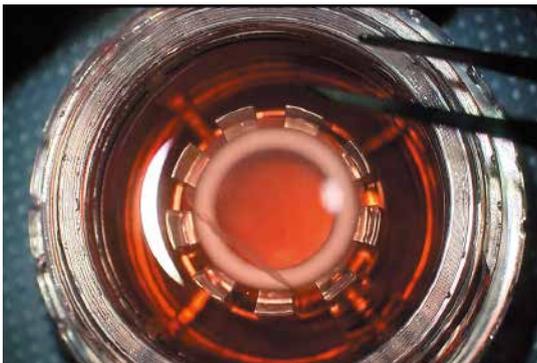
研究面では、再生医療を見据えた基礎と臨床を橋渡し

する研究が着実に進展しています。マウス涙液由来の細胞外小胞を同定し、それらが眼表面の恒常性維持に関与する可能性を示す新たな知見を発信するなど、福岡大学発のエビデンス創出を推進しています。

本講座では、高度前眼部医療を体系的に提供することを目的として、福岡・九州地域に貢献する前眼部診療センターの構築を中長期的な目標として掲げています。角膜移植、難治性ドライアイ、重症翼状片、眼表面再建、再生医療といった専門性の高い診療を集約し、難症例に対して一貫して対応可能な診療体制の確立を目指しています。角膜移植医を養成するフェローシップ教育・研究を推進し、前眼部疾患診療の質を地域全体で底上げすることで、福岡大学から九州の眼科医療を支える拠点形成を進めたいと考えています。

次年度からは、眼瞼（まぶた）外来の設置や、組織バンクとの連携強化を目標として掲げ、診療体制のさらなる充実および基盤整備に取り組んでいく予定です。

本講座は今後も、新体制のもと教室員が一丸となって診療・教育・研究を高い水準で融合させ、地域と社会に信頼される眼科学講座として持続的な発展を目指してまいります。



口腔粘膜上皮を用いた再生上皮シート



福大眼科医局員集合写真

長い間ありがとうございました

令和7年10月1日～令和8年2月28日までに退職された方

■ 高山 幸久 准教授（放射線医学）

■ 三宅 智 講師（整形外科）

以上、令和7年12月31日付け

教室だより  
Letter from a classroom



## 解剖学講座

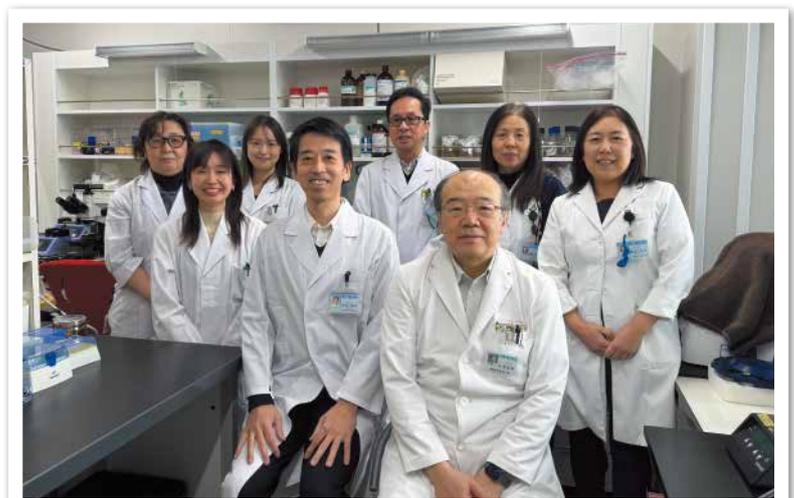
福岡大学医学部解剖学講座は、昭和48年に解剖学第一講座として開講し、平成14年の基礎講座再編を経て現在の体制となった講座です。平成17年から長年にわたり教授として教室を牽引されてきた、立花克郎先生が令和7年3月に定年で退任され、同年4月より私、貴田浩志が主任教授を拝命し、新たな体制のもと教室運営を担っております。立花先生には総合医学研究所に所属しながら、引き続き教育・研究の両面でご指導をいただいております。そのため教員構成はこれまでと同様に5名体制を維持しており、本講座の特色の一つである医師が複数在籍する解剖学教室として、教育・研究を進めております。

教育面では、医学部1年次の肉眼解剖学講義および2年次の系統解剖実習を中心に、人体構造の基礎教育を担っています。解剖学は医師を目指す学生にとって、人体を理解する最初の学問であり、その後の臨床医学を支える重要な土台となります。本講座では、これまで培われてきた献体に基づく実地的な解剖実習を大切に守りながら、近年はデジタルの教材や教育システムを積極的に取り入れ、学生が主体的に学べる環境づくりを進めています。人体の構造を自らの目で見えて理解する経験を通じて、将来の医療を担う基礎力を確実に身につけてもらうことを目標に、教員一同で指導にあたっています。

研究面では、これまで続けてきた超音波と気泡製剤（ウルトラファインバブル）を利用した薬物・遺

伝子送達技術の研究を継続的に発展させ、学内外との共同研究や企業との連携を進めています。とくに近年は、中枢神経系疾患に対する遺伝子治療への応用を見据えた技術開発に力を入れており、基礎医学分野から新しい治療法の開発を目指した研究を進めています。研究棟別館の改修工事に伴い、令和7年5月に研究室が仮移転し、令和8年1月に再び改修された真新しい研究環境へと生まれ変わりました。私の教授就任の時期とも重なり、心機一転、より活発な研究活動が行える体制づくりに努めているところです。

これまで受け継がれてきた伝統を大切にしつつ、新しい教育手法や研究領域を取り入れながら、解剖学講座としての役割をさらに発展させてまいりたいと考えております。今後ともご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



解剖学講座のメンバー：改装されたばかりの実験室にて

## 学位取得

次の方は、福岡大学より博士（医学）を授与されました。

### 課程修了による学位取得者 [令和7年9月13日付け]

- ・橋本 恭弘(先端医療科学系専攻)
- ・石田 倅子(先端医療科学系専攻)
- ・藤田 崇史(先端医療科学系専攻)

### 論文提出による学位取得者 [令和7年10月9日付け]

- ・郡家 直敬(病態構造系専攻)
- ・金山 博成(病態機能系専攻)
- ・田中 慎二(病態機能系専攻)
- ・宮島 茂郎(病態構造系専攻)
- ・佐藤 圭亮(病態機能系専攻)
- ・島岡 秀樹(先端医療科学系専攻)